

## 都市計画審議会を傍聴し陳述する

昨日 18 日 14 時から、大阪市都市計画審議会（都計審）を傍聴した。都計審傍聴は初めてなので、早めに会場に行った。傍聴「1 番」で傍聴席に座っていたが、傍聴人は私 1 人であった。報道関係者も議会開会中で、関心もないのか、1 人も来なかった。20 数名の学識経験者・大阪市会議員、大勢の事務局のなか、私だけが傍聴席にポツンと座っていた。

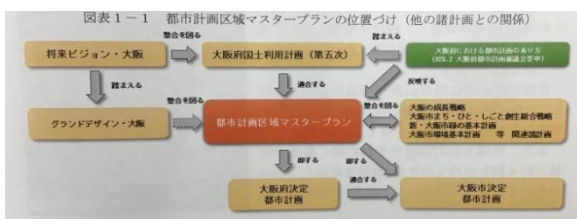
写真の会議次第で、副市長挨拶、審議会会長選出と続き、議案として「大阪都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更について」が事務局から提案された。これは案の公告・縦覧を経て、8 月 21 日の松井一郎市長の審議会付議にもとづくものである。

令和 2 年度第 1 回大阪市都市計画審議会	
会 議 次 第	
日 時	令和 2 年 9 月 18 日 (金) 午後 2 時 00 分から
場 所	大阪府役所本庁舎 議土階 (P1) 共通会議室
1	開 会
2	副市長挨拶
3	審議会会長の互選
4	議 案 議第 2 5 8 号 「大阪都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更について」
5	閉 会

事務局が方針を説明したあと、市民 5 人から提出された「意見書」要旨、それに対する市側見解が説明された。会長から陳述の可否について諮られて承認され、別室に移動した。傍聴者と報道関係者は陳述を直接聞けない決まりだが、私 1 人なので手順がすこし違ってしまったようだ。とにかく委員が並ぶ正面の演壇で陳述を始めた。最初はマスクをしたが、聞こえにくそうなので、外して陳述した。

昨日もレポートしたが、まずは方針のなかに新型コロナ関係の記述が一言もないことを問題にした。すこし記載されているかと読み返したが、コロナについては、まったく触れられていなかった。事務局の説明では、社会情勢の変化に伴って適宜に計画を見直すというが、せつかく新しい方針を出すのなら、コロナの影響についてポイントだけでも、計画に書き加えるべきではないか。

次に、この計画の目標年次は 2030 年であるが、大阪府市が強引に進めている大阪市廃止・特別区設置と整合性がとれているのか。大阪市が廃止され、4 特別区になると、本都市計画区域の「都市づくりの目標」と矛盾するのではないかと指摘した。コロナ危機と大都市制度「改革」をめぐる動きからも、計画の採択を延期すべきでないかと訴えた。



時間は 4 分を過ぎたところで、あと 1 分あるので、夢洲のまちづくりについても指摘した。コロナ危機により、IR という名のカジノ誘致も不透明になり、夢洲のまちづくり計画を抜本的に見直すべきでないかと強調して、5 分の陳述を終えた。

そのあと議案の審議に移り、山中智子議員がコロナ禍の先が見通せない中で、採択の延期を求めるといった発言があった。そのほかの発言はなく、都市計画案は原案通り採択された。意外だったのは、学識経験者から一言も発言がなかったことだ。コロナ危機に対する認識を聞いてみたい。あらためて審議会というものを考えさせられた。

(2020 年 9 月 19 日)